

# 首都直下地震編



Hayasaka Report 2013.3



東京都議会議員

## 早坂よしひろレポート

発行  
都議会  
自民党

**早坂** 東京都議会議員  
杉並区ではどんな被害が予想されますか

**早坂** 最悪の場合、死者1万人が発生するとされています。建物倒壊や家具転倒によるものが60%、火災によるものが40%です。東日本大震災は水死が90%でしたから、被害の様相は全く異なります。

**東日本大震災から2年、東京を襲う地震はどういうものですか**

**早坂** 東京都が昨年4月に発表した「首都直下地震の被害想定」によると、

並区における首都直下地震対策は、火災対策だと書いて構いません。ちなみに区内すべての建物のうち、実際に20%が全焼するともされています。

**地震による火災対策はどうしたらいいですか**

**早坂** 三つの段階に分けて、お話しします。

まず最も本質的な対策は「防災まちづくり」です。

火災が起きにくいやう、建物を不燃化・耐震化する。

延焼を防ぐために、狭い道路を拡張する。例えば千代田区では、このような「防災まちづくり」がすでに完了しているため、避難場所は設けていません。延焼火災が発生しないため、避難の必要がないからです。

しかし木造住宅密集地域を抱える杉並区において、防災まちづくりを進めるには、残念ながら今後数十年以上の時間が必

「東京での大地震発生確率<sup>(※)</sup>は、30年以内に70%」だと国が発表したのが、平成16年。すでに9年が経過し、いつ首都直下地震が発生してもおかしくありません。そこで東京都の震災対策について報告します。(※)マグニチュード7級の地震

## 杉並区の地震被害は火災です

**早坂** 最悪の場合、死者600人にのぼるとされています。杉並区の特徴は、このうち「火災」によるものが75%だとされていることです。したがって、杉せん。

**食糧備蓄はどのくらい必要ですか**

**早坂** 阪神淡路大震災でも、食糧が足りず死亡した人はいませんでした。首都直下地震でも同様だと思います。つまり備蓄食料は、あくまで大震災から生き残った後、初めて必要なものです。その前提を確認した上でいえば、3日分のものを用意しておくのが望ましいです。しかし食糧備蓄は、

防災の本質ではありません。  
(裏面へ)



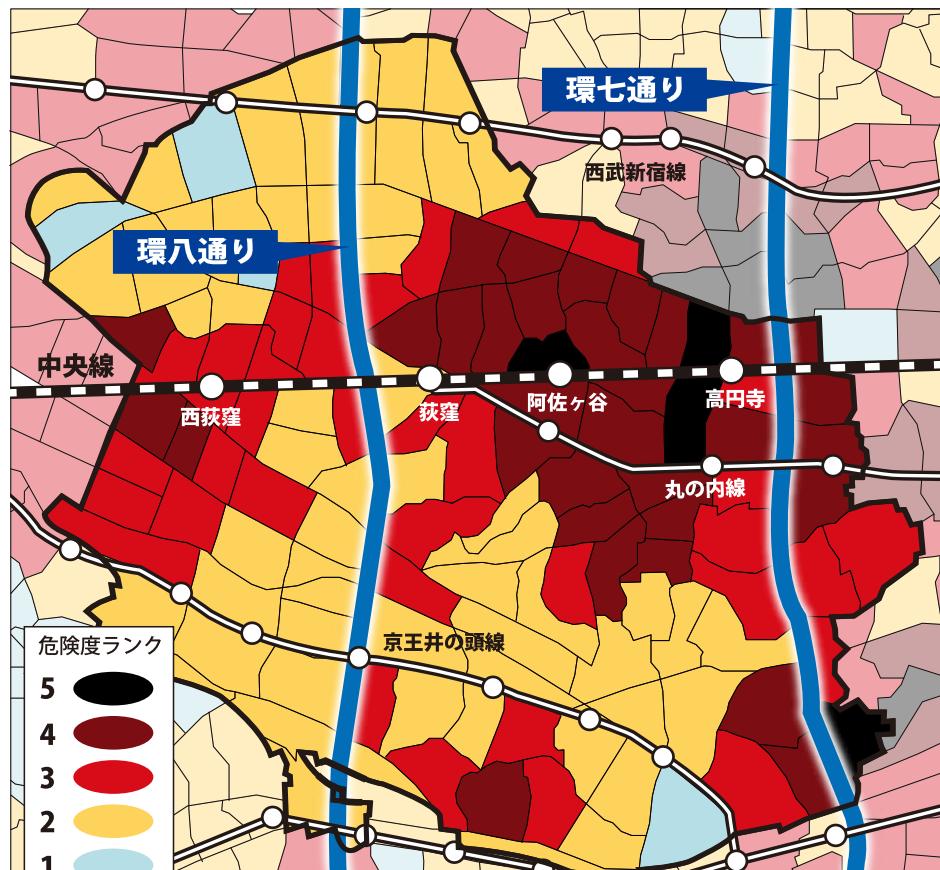
いつ首都直下地震が発生してもおかしくありません。

皆さまのご意見をお寄せ下さい。

早坂よしひろ事務所：〒167-0051 杉並区上荻1-11-5-505 ☎03(3220)0411 hello@tokyo-hayasaka.com



# 木造住宅密集地域を抱える杉並区



スタンドパイプと消火栓

多くの消火栓は使用可能だと思われます。スタンドパイプの使用方法は簡単とはいっても、事前に訓練をしておかなければ、とつさに使用することはできないでしょう。

**それでも消火できない場合はどうすればいいですか**

**早坂** 延焼火災となつた最後の段階では「避難」が必要です。関東大震災では2万坪の広大な空き地（本所被服廠跡）に4万人が避難しましたが、その95%

（3万8000人）の方が焼死しました。避難者が持ち込んだ荷物に、火が燃え移ったからです。一般論としては「広大な空き地に避難すべき」ですが、避難経路や避難場所での安全確保など、さらに研究が必要なのはこの分野だと思います。

私は東京の「いのち」を守るために、今後も全力で働きます。

（3万8000人）の方が焼死しました。避難者が持ち込んだ荷物に、火が燃え移ったからです。一般論としては「広大な空き地に避難すべき」ですが、避難経路や避難場所での安全確保など、さらに研究が必要なのはこの分野だと思います。

私は東京の「いのち」を守るために、今後も全力で働きます。

私は東京の「いのち」を

**火災が起きてしまつたらどうしたらいいですか**

**早坂**

次に必要なのは「初期消火」です。地震が大きければ大きいほど、消防隊は助けに来てくれないと、最悪の状況を想定すべきです。なぜなら、同時に多発の火災に対応できること。

また建物倒壊などにより、抵抗力には限界があること。

**自分たちで初期消火ができるですか**

**早坂**

火が天井にまわらなければ、水に浸した毛布

道路が寸断されていることが予想されるからです。そこで住民自らが助け合おう、消防団の皆さんと協力しあつて、火災を小さなくちに消し止めることが求められます。

（3万8000人）の方々が水道管自体に圧がかかっているため、3階建てまで水が届くのです。消火栓は杉並区では80メートル四方に1箇所以上設置されており、震災時の区内の断水率は25%とされていますので、

いうちは、水に浸した毛布

を火元に掛けるなどして、対応が可能です。しかし火を消すことに気を取られて、ご自身の安全を守ることを忘れてはなりません。ご近所の皆さんと一緒に、スタンドパイプなどを利用して、消火にあたるべきです。スタンドパイプとは、消防隊が使う消火栓に取り付けるだけで、高所まで

水が届くという器具です。消防栓が使う消火栓に取り付けるだけで、高所まで

私は東京の「いのち」を

防ぐには限界があること。

いうのは、水に浸した毛布

が届くのです。消火栓は杉並区では80メートル四方に1箇所以上設置されており、震災時の区内の断水率は25%とされていますので、

**プロフィール**

- 昭和43年荻窪の東京衛生病院生まれ（44才）
- 西田幼・西田小・松渕中卒業、大検合格
- 立教大学法学部（北岡伸一ゼミ）卒業
- 働きながら明治大学公共政策大学院（青山俊ゼミ）修了
- 防災情報機構NPO法人事務局次長として全国講演
- 平成17年 東京都議会議員に初当選（現在2期目）
- 東京都議会防災議連幹事、日本防災士会東京都支部長
- 明治大学客員研究員

<災害調査>  
米国ハリケーンカトリーナ、中国四川大地震 他、国内外多数。  
東日本大震災では発災当日に被災地入りし、支援活動を行う。

**早坂よしひろ**  
ミスター防災

〈2012年7月号〉  
オリンピック編

オリンピック写真家  
岸本 健さん

〈2012年3月号〉  
被災地の復興編

明治大学大学院教授  
青山 俊さん

〈2012年1月号〉  
緩和医療編

東邦大学病院医師  
大津 秀一さん

〈2011年3月号〉  
高齢者の住まい編



バックナンバーを  
ご希望の方はご一報ください。

皆さまのご意見をお寄せ下さい。

早坂よしひろ事務所：〒167-0051 杉並区上荻1-11-5-505 ☎03(3220)0411 hello@tokyo-hayasaka.com

